

(7) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・鉱工業生産はこのところ横ばいとなっている。
- ・個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

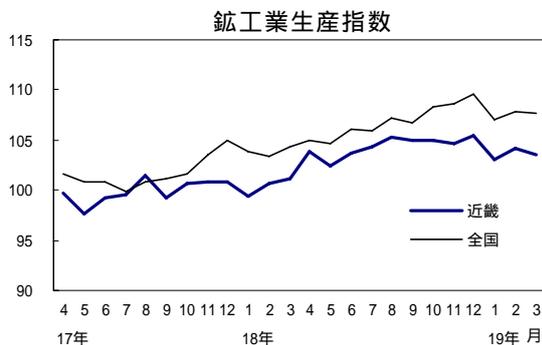
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 19 年 2 月）	今回（平成 19 年 5 月）	
生産	緩やかに増加	このところ横ばい	
個人消費	おおむね横ばい	持ち直しの動き	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はこのところ横ばいとなっている。

一般機械は、フラットパネルディスプレイ製造装置が、国内外の受注が伸び悩んだことから減少している。化学は、化粧品や塗料等が好調なことから堅調に推移している。電気機械は、DVDやセパレート型エアコンが前期の反動で減少したことから、全体でも減少している。食料品・たばこは、清酒、ビール、発泡酒等が好調だったことから増加している。電子部品・デバイスは、主に携帯向けのアクティブ型液晶素子（中・小型）が不調だったことから減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
一般機械	15.0	3.5	3.2	2.6	5.7
化学	12.8	1.2	0.4	0.7	4.9
電気機械	10.1	2.1	2.7	2.4	4.1
食料品・たばこ	8.1	1.1	5.0	5.4	30.7
電子部品・デバイス	7.9	1.1	4.9	1.7	1.6
鉱工業	100.0	0.2	1.3	1.4	1.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1~3月期は速報値。

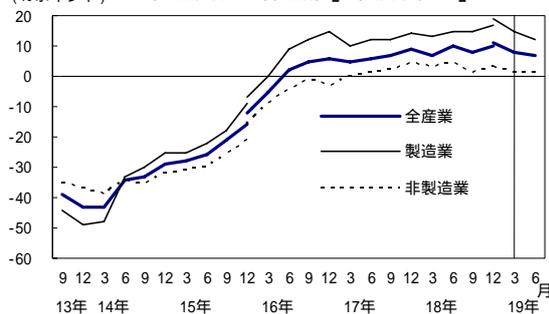
(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

2. 平成19年3月の近畿は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

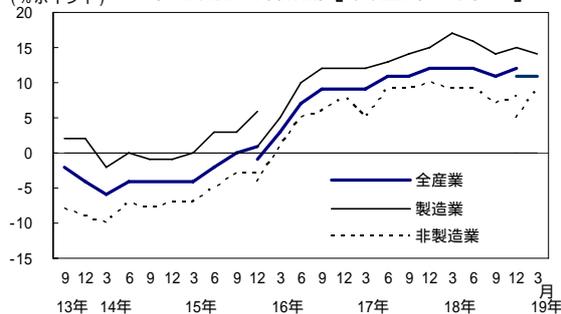
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



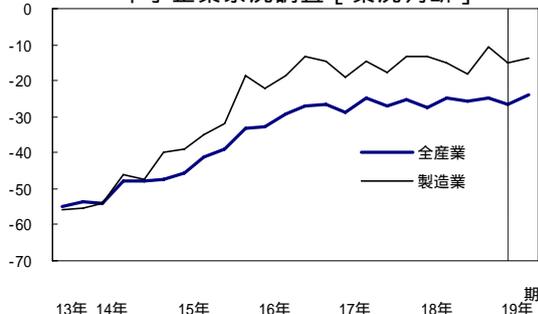
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年6月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「土地の値段は上がっているものの、オフィスなどの賃料は上がっていない(不動産業)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

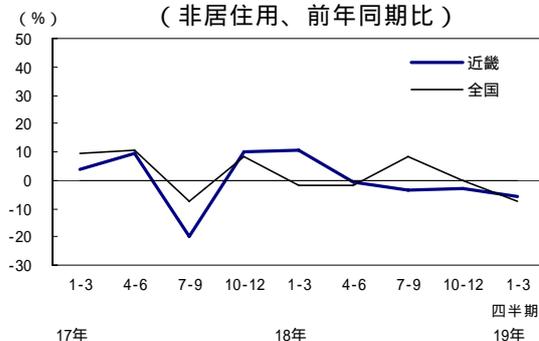
(3) 18年度の設備投資は前年度を上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績見込み	19年度見込
全産業	8.6 (0.5)	0.1
製造業	14.3 (0.6)	2.7
非製造業	4.0 (0.4)	2.2

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる

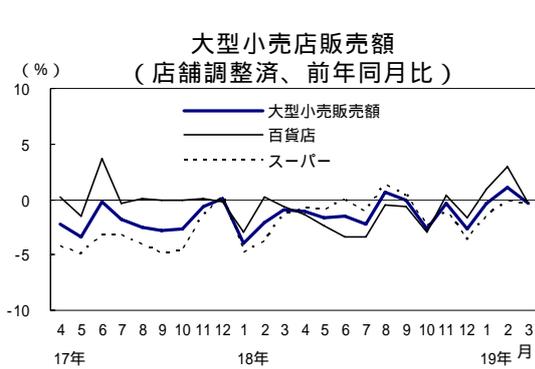
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、初売りの福袋やクリアランスセールの出だしは好調であったものの、気温が高めに推移したことから冬物衣料品の動きが鈍く、前年を下回った。2月は、バレンタイン商戦が好調で飲食料品の動きが良かったことや、一部店舗の閉店セールの影響で、衣料品や身の回り品に動きがみられたことから前年を上回った。3月は、飲食料品は、菓子、惣菜等の動きが良く前年を上回ったが、主力の衣料品が、中旬に気温が低くなり春物が振るわなかったことから前年を下回り、全体でも前年を下回った。なお、近畿百貨店協会によると、大阪地区の4月の売上高は、前年同月比で1.2%減となっている。

スーパーは、衣料品の動きは鈍かったものの、暖冬の影響からアイスクリームやビールが、また行楽需要から弁当や惣菜など、飲食料品の動きが良かったことから、全体では前年比のマイナス幅が縮小している。

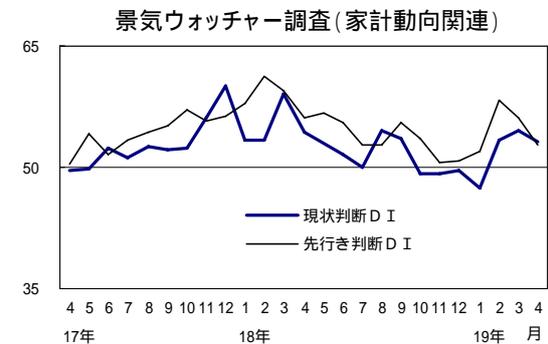
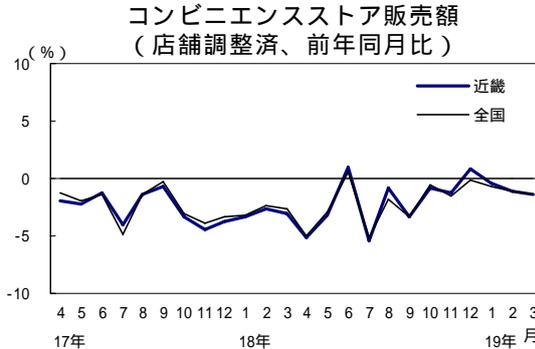
景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「事前に予算などを決めてから購入する客が増えており、買物が堅実になってきている。売上を維持することはできても、伸ばすことができない(住関連専門店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	18年4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月
大型小売店	1.4	0.7	2.0	0.1
百貨店	2.4	1.7	1.4	1.0
スーパー	0.6	0.2	2.4	0.7
コンビニ	2.4	3.2	0.4	1.0
景気ウォッチャー	53.0	52.7	49.4	51.8

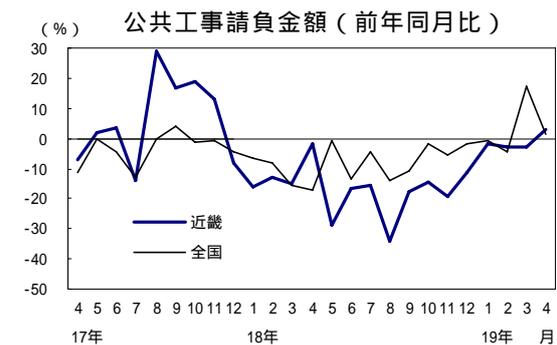
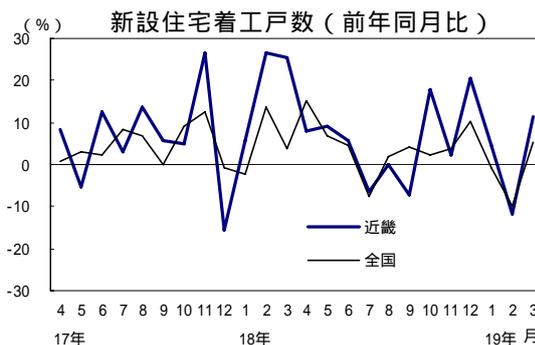
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家が前年を下回ったものの、分譲が上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

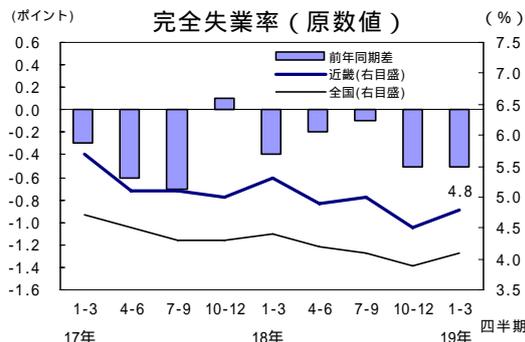
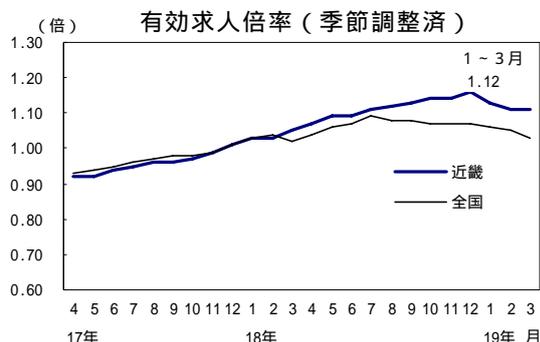


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]

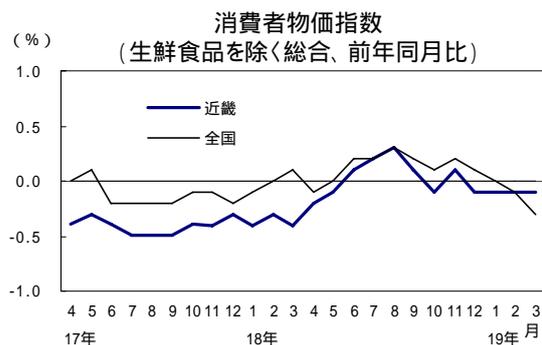
「年度が変わっても落ち着いた動きとなっている。そのなかでIT関係では相変わらず派遣依頼が多く、6か月以内に正社員として採用される紹介予定派遣が増えている。また、営業職の案件も増えてきている (人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月	19年4月
倒産件数	910	893	897	920	301
(前年比)	13.5	3.1	17.2	0.1	2.0
負債総額	1,891	2,064	3,301	2,242	706
(前年比)	53.7	42.6	3.3	37.5	47.1



景気ウォッチャー調査 (4月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・白物商品の売上がわずかに伸びているほか、デジタル関連商品、特に薄型テレビでは客が求める商品のワンランク上の情報を与えることで、購入商品のランクが上がっている (家電量販店)

<先行き>

- ・夏休みの旅行受注の滑り出しはおおむね順調で、高額商品と低額商品が売れている一方、最もボリュームのある中間価格帯の売上が伸びていない (旅行代理店)

景気ウォッチャー調査 (合計)

